別紙１：年間の活動内容（１年生）

		日　付	内　　容	備考	その他
1学期中間まで	1	4月17日	オリエンテーション	「探究とは？」	
	2	4月24日	高知みらい科学館事前学習	海のプラスチック問題について（知っていること、知らないこと、私たちの生活とプラスチックの関わりを考える）	
	3	4月28日	高知みらい科学館・高知大学訪問	高知みらい科学館：講義・実験「牛乳からプラスチックをつくろう」 高知大学：講義「探究とは何か。なぜ探究が必要なのか」	
	4	5月1日	訪問学習振り返り・探究学習の進め方	・4/28訪問学習振り返りの共有 ・冊子第２章	
	5	5月8日	探究学習の進め方	冊子第２章	
	6	5月15日	探究学習の進め方	冊子第２章 グループごとにこれまでの取組を発表	
1学期中間～期末まで	7	6月5日	地域の現状と課題	・土佐清水の魅力と課題について（魅力と課題をJamboardで整理し、ジャンル分け） ・興味のある分野でグループ分けをし、問いを考える	
	8	6月12日	地域の現状と課題 【外部講師講話①】	・観光分野：市役所観光商工課ジェイソン氏 ・防災分野：中浜区長西川氏	
	9	6月19日	地域の現状と課題 【外部講師講話②】	・地場産業分野：株式会社たけまさ商店武政氏 ・自然分野：環境省保護官小林氏	
	10	6月26日	課題の設定	・問いの設定 6/5に分かれたグループで座る⇒まず個人でその分野に関する問いを考える（できるだけ多く）⇒グループで共有し、絞っていく	
	11	7月3日	**３年生発表**		
1学期末後	12	7月18日	課題の設定	・課題（問い）を設定する ・今後の探究活動計画を立てる	
	13	7月18日	課題の設定・１学期の振り返り		
2学期中間まで	14	9月4日	活動計画・情報収集	・夏休み中の活動の振り返り ・今後の活動計画 ・グループ別活動	
	15	9月11日	情報収集	・グループ別活動	
	16	9月25日	情報収集	・グループ別活動	
	17	10月2日	整理・分析	・グループ別活動	
2学期中間～期末まで	18	10月23日	発表資料作成	・発表用スライド作成（盛り込むべき内容や流れは生徒に考えさせ自身で考える）	
	19	10月30日	**中間発表**	・グループごとに発表（１班５分＋質疑応答２～３分） ・聞き手のフィードバックはJamboardで入力させる（発表後に入力する時間をとる） ・自分たちの発表の振り返りの記入	司会：金井
	20	11月13日	振り返り・計画修正・追加の調査	・振り返りの共有 ・今後の計画の修正	
	21	11月20日	追加の調査	・グループ別活動	
	22	11月27日	追加の調査	・グループ別活動	
	23	12月4日	追加の調査・発表資料作成	・グループ別活動	
2学期末後	24	12月18日	発表資料作成	・グループ別活動	
	25	12月22日	発表資料作成	・グループ別活動	※２時間
3学期　発表会まで	26	1月15日	発表資料作成・発表練習	・グループ別活動	
	27	1月22日	発表練習	・グループ別活動	
	28	1月29日	**学年発表**	・グループごとに発表（１班５分＋質疑応答２～３分） ・聞き手のフィードバックはJamboardで入力させる（発表後に入力する時間をとる） ・自分たちの発表の振り返りの記入	司会：境 ※１学期の講話講師が来校（ジェイソン氏、西川氏、小林氏）
	29	2月5日	振り返り・発表会準備	・グループで振り返りの共有 ・教員からのフィードバック ・発表会に向けてグループで準備	
	30	2月15日	**探究発表会**	・５限１年発表、６限２年発表	全体司会：小島
3学期発表会後	31	2月19日	２年生発表・（１年間の振り返り）	・２年発表の参観→残りの時間は個人で振り返り	
	32	2月26日	１年間の振り返り	・個人で振り返り（ドキュメントに入力）	
	33	3月14日	２年次に向けて	・探究テーマを考える	

Ⅴ　実践報告Ⅱ「２年生総合的な探究の時間　活動報告」

1　昨年度の成果と課題

１年次には探究の方法論を学び、地域についての理解を深め、生徒同士が協働することを目的として活動した。１学期にはテキストをもとに探究の基礎、手法を学び、夏休み以降は、「自然」「観光」「防災」「食」「福祉」「医療課題」等教員が与えたテーマで、地域について探究活動を行い、学年末には、発表会を行った。

成果として、生徒自身が探究のサイクルを理解する事ができたことが挙げられる。しかしながら生徒の中には探究活動に対し、高いモチベーションを維持できなかった生徒もいたように感じる。その要因として本校生徒のほとんどが土佐清水市出身であり地域についての固定観念やネガティブな感情を持っていた。そこで、他地域を知り、比較をすることで、自分たちが持つ視点以外で地域を捉え直す必要があると感じた。また協働していただける地域の方が見つけられなかったことやフィールドワークの時間が放課後・休日等になるため補習・アルバイト等により調査活動の計画を調整できなかったことが課題だと感じた。

2　目標

第１　目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2)　実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3)　探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

（高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）より引用）

各学校において定める総合的な探究の時間の目標

１年次において探究の基礎、手法を学び、身近な課題を見つけ探究を行う。そのうえで地域、日本、世界と視野を広げて探究課題を設定する。２年次には１年次に設定した課題に対して、学んできた探究手法を用いて実践し、発信する。３年次にはこれまで探究したことを活かして自らの進路を考え、その実現に向けた主体的な活動を行う。

以上の取組を通じて、様々な困難に対し自ら克服できるような社会性や人間力を養い、将来地域の核となり、土佐清水のみならず社会全体を支えていける、確かな学力と豊かな社会性を持った人物を育成する事を目標とする。

上記学習指導要領の目標および、各学校において定める総合的な探究の時間の目標をもとに前年度の反省を踏まえ、以下のように学年団独自に生徒に身に付けさせたい目標を具体化し、整理した。

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力
課題発見力 日常生活から学問的な問いや社会的な課題を引き出すことができる。 **科学的な思考方法** 適切な問い、仮説、検証を設定することができる。 調べ学習と探究活動の違いを理解できている。 **領域分野に関する知識・概念形成** 自分が探究した領域・分野に関する知識を概念として形成できている。	**批判的思考力** 情報を「うのみ」にせず、自分で考える力が身に付いている。 **多角的・客観的内省** 科学的な根拠や視点をもって自らの探究活動（判断）を内省的に捉え直すことができる。 **論理的表現力** 探究したことを視覚的に構造化して発表資料に落とし込むことができる。 事実の羅列ではなく、因果関係や理由と根拠などを意識した原稿を作成することができる。	**貫徹精神** 取組に対して客観的な視点を持ち、一貫した姿勢で臨むことができる。 **他者との協働** 敬意をもって他者を受容しながら協働できる。 **当事者意識** 地域・社会の構成員としての自覚を持ち、地域・社会に貢献しようとしている。

３　年間の活動内容（別紙２参照）

４　具体的な取組活動

（１）１学期の取組

１学期は前年度を振り返り、探究活動のサイクルの確認、自身が興味のある分野について調べ、先行研究や文献から知識を得て、新たな問いを立てた。その問いをアイデアソンによってブラッシュアップしていき、仮説を立て、夏休み以降の探究の計画を立てた。探究の問い及び仮説ができた段階で本校の地域連携コーディネーターに生徒の探究テーマに関連する地域の方々とつないでもらい、夏休みには地域の方々に直接お話を伺いに行くなどのフィールドワークを実施した。

（２）２学期の取組

９月には、１学期に行った探究の計画と夏休みに実施したフィールドワークをもとに中間発表を行った。そこで地域の課題と SDGs について学んだことをアウトプットし、担当教員から質疑を受けることで、多角的に物事を捉えるとともに、新たな問いを見つけ、探究活動の充実を図った。中間発表をして洗い出された課題をもとに追加の調査・分析活動を行い、２学期末からは年度末学年発表会に向けて、調査・分析したデータをもとに、構造化して発表資料（Google スライド）の作成を行った。

（３） ３学期の取組

１月学年発表会において代表選考を行い、２月に代表者による校内発表会を行った。学年発表会では全23テーマから本校管理職による推薦２、本校地域連携コーディネーターによる推薦１、学年団教員による推薦２、生徒投票による選考２の合計７テーマを代表として選考した。

また、内閣府の主催するイベント「世界青年の船」では来校された方々の前で全員がポスターセッションによる発表を行った。

（生徒の課題設定・学年末発表のタイトル/探究の問いについては別紙３参照）

５　成果と課題

今年度の活動では、生徒の興味関心からテーマを設定したことで前年度よりも生徒の探究活動に対するモチベーションが高まったように思う。課題設定にあたっては、全体に対してテーマについての説明を行ってから、個人での作業に落とし込んでいったことで全体的に質の高い問いの設定ができた。特に問いの設定ではアイデアソンによってテーマ設定の理由等を語ったことで自身の探究テーマに対して、情報を収集・整理する機会となるとともに、モチベーションを高める機会ともなった。

地域に出て行ったフィールドワークでは、地域連携コーディネーターに、地域のことをよく知る人材とつないでいただいたことで、スムーズに外部と連携することができた。そのことにより生徒の活動も活発化した。

１学期のアイデアソンや２学期はじめに設定した中間発表会などアウトプットの機会を設定することによって、これまでの取組をまとめ、今後の取組の深化につなげることができ、他者に向けて発表することで、プレゼンテーションスキルの向上につなげることができた。

また、毎時間、活動の振り返りとして「新たな疑問」を考えさせることで、取組に対して多角的に考える習慣がついた生徒も見られた。年度末の学年発表では今後の課題や新たな問いを立てた生徒も多く、探究活動から新たな問いを見出し深化させていく、探究活動のサイクルが身に付いてきたことは大きな成果と言える。

しかし、外部との連携が図れなかったり、探究計画の見通しが立たず、活動が遅れてしまった生徒については、当初の計画どおりに進まず、やや不完全燃焼な結果となり、モチベーションを保つこと、探究の問いを実際の活動・行動に移すことに課題があると感じた。これらの要因として、ゴールイメージを持たせる活動が十分にできなかったこと、調査方法をうまく提示することができなかったこと、「探究をすることで自分たちの地域・社会を自分たちの手で良くすることができる」という認識を持たせることができなかったことが挙げられる。探究の問いを立てた後、ブラッシュアップさせていく活動や、ゴールイメージの共有、大学等研究機関との連携など、探究を深化させる取組はある。また、総合的な探究の時間以外の時間でも自身が社会の一員であり、地域への愛着を深める活動、自身が行った活動が周囲に影響を及ぼす経験など教員が、生徒の自己効力感を高める環境をつくっていく必要があると感じた。

また、外部との連携を図り、探究活動を深化させるには、協働していくことのできる人物の

データベース化や過年度の探究活動の実績を生徒・教員共に蓄積していく体制、総合的な探究の時間の組織的な運用方法の構築が急務かと考える。

生徒の学年末発表資料
『児童虐待をなくすために』（一部抜粋）

『土佐清水の材料を使ってお菓子を作る』（一部抜粋）

40%のマーマレード： 甘さ控えめ マーマレードより単体で食べたい 味に良さそう 80%のマーマレード： 甘すぎる 果物の味が引き立っていない ↑糖度60%で長い時間保存がきくようになる 結論 40%だと甘さ控えめ、80%だと甘すぎる →長い時間保存が効く	

別紙２：年間の活動内容（２年生）

	日　付	内　　容	備　　考
1	4 月 17 日	オリエンテーション	全体で実施、目標・1 年後の姿の確認
2	4 月 24 日	探究テーマ見直し①	目標（＝「探究」であること≠調べ学習）の再確認、探究したいテーマを考える
3	5 月 1 日	探究テーマ見直し②	探究したいテーマ考える
4	5 月 8 日	課題設定見直し①	活動グループの発表、グループ方針確認、動画視聴
5	5 月 15 日	課題設定見直し②	個人探究/グループ探究を決め、目標・知りたいことを考える グーグルスカラーで先行研究の検索
6	6 月 5 日	課題設定①	先行研究講読。5 月 15 日に選んだ論文講読
7	6 月 12 日	課題設定②	探究活動の流れ確認や情報収集の方法確認 オーテピアで選んでもらった領域分野の本から自分が読んでみたいものを選び講読
8	6 月 19 日	課題設定③	先行研究講読で読んだ研究内容の共有。読んだ研究内容をまとめたワークシートに他者から意見をもらう
9	6 月 26 日	課題設定④	問いの設定方法についての練習
10	7 月 3 日	３年生発表聴講	
11	7 月 12 日	課題設定⑤	テーマ設定・問いを立てるアイデアソンを行う
12	7 月 18 日	フィールドワーク計画 仮説検証①	７月 12 日に設定したテーマ・問い・仮説を教室内で共有 夏休みの活動計画の立案
13	9 月 4 日	仮説検証のまとめ 中間発表資料作成①	中間発表・学年発表・年度末の校内発表などの年間の予定の確認 中間発表の目的を確認し資料を作成
14	9 月 11 日	中間発表資料作成②	スライド作成の続き。スライドを分かりやすくするための工夫として、思考ツールなどを用いた図解資料を作成するための取組
15	9 月 25 日	中間発表	中間発表目的の共有。１教室当たり３グループの発表 生徒発表（５分）→聞き手による生徒へのフィードバック（３分） →質疑（５分程度）
16	10 月 2 日	中間発表振り返り 今後の探究計画作成	中間発表の振り返り 次回以降の総合的な探究の時間内・時間外（放課後・休日など）にしなくてはならないことを書き出す
17	10 月 23 日	追加の調査・検討①	探究計画を基に追加の調査・検討などを行う
18	10 月 30 日	追加の調査・検討②	探究計画を基に追加の調査・検討などを行う
19	11 月 13 日	追加の調査・検討③	探究計画を基に追加の調査・検討などを行う
20	11 月 20 日	発表資料作成①	構造化（図や表の使用など）を意識させながら発表資料を作成する
21	12 月 4 日	発表資料作成②	構造化（図や表の使用など）を意識させながら発表資料を作成・提出する
22	12 月 18 日	発表資料作成③	予めスライドを担当教員で添削 添削を基にスライドのブラッシュアップを行う
23	12 月 22 日	発表資料作成④	担当教員の前で発表、改善点を見つける
24	1 月 15 日	学年発表①（代表選考会）	代表選考会を兼ねて一年間の取組を発表する
25	1 月 22 日	学年発表②（代表選考会）	
26	2 月 5 日	発表会準備	ポスターセッションの準備として、ポスターの作成（スライドを印刷し貼り合わせる）と英語原稿の作成を行う
27	2 月 14 日	世界青年の船	ポスターセッション
28	2 月 15 日	探究発表会１	代表４テーマの発表
29	2 月 19 日	探究発表会２	代表３テーマの発表
30	2 月 22 日	１年間の振り返り	個人で振り返りワークを行う
31	2 月 26 日	1 年間の振り返り	前回記入した振り返りをもとに、担当教員と面談を行う

別紙３：生徒による課題設定一覧（２年生）

	発表タイトル	探究の問い
1	終わらない流行	なぜ、スイーツの流行には終わりがないのか
2	ひとりでも。大丈夫	やむを得ず、一人暮らしをしている人は孤独をどう乗り越えるのか
3	窓と光と心～太陽の光は集中力に関係するのか～	陽の光を使って昼間の同じ時間、窓とカーテンを閉めた状態の方が勉強への集中力が高まるのでは
4	イライラの対処法～イライラとおさらばできるかも！？～	心がけ次第でイライラしなくなるのか
5	楽に走るために	どうすれば持久走を楽に楽しんでもらえるか
6	日韓呼称選択の不思議	日・韓アイドルの仲の良さによって、相手のことを呼ぶ言い方は違ってくるのか
7	マンガ・アニメ「人を惹きつける要素」	結局観たくなる作品はどういうものなのか
8	写真と感じる思い	ストーリーを感じる写真とは？
9	変わる地域を変える ～少子高齢化地域のトリセツ～	土佐清水市の若者は政治経済面の実態や政策についてどのくらい知っているのか
10	塩について	高知県の塩を皆にもっと食べてもらうにはどうしたらいいか
11	人はなぜ化粧をするのか	若者が化粧をする前と後ではどういった気持ちの変化があるのか
12	あなたの知らないウミウシの世界	ウミウシは土佐清水市という同じ環境に住んでいるのになぜ色や柄が違うのか
13	キャンプ日記	災害時に役立つキャンプ用品
14	相手を理解するためには	”理解”から最も遠くなる瞬間とはなにか
15	土佐清水市の観光について（仮）	白山洞門と松尾漁港ではどちらが集客数が多いか また、それはなぜ多いのか
16	日焼け止めの探究	スキンケア用品でその商品の効果と値段は比例するのか
17	土佐清水の材料を使ってお菓子を作る	小夏の取れる時期は限られているが冬でも食べてもらいたいので保存のきくジャムを作ることはできないか
18	日韓比較～なぜ差が生まれるのか～	なぜ韓国人には英語が得意な人が多いのか
19	アニメに対する偏見	暴力的な描写を子どもに見せること、見ることを望んでいないのは誰か
20	児童虐待を無くすために	なぜ虐待の世代間連鎖は繰り返されるのか
21	音の聞こえ方	感音性難聴と老化による聴力低下は聞こえ方に違いはあるのか
22	競馬の見方	競馬を観客がプラスの印象に見られるようになるには、どうすればよいか
23	医療的ケア児の未来	医療的ケア児にとって、より良い看護環境とは、どのようなものか

Ⅵ　実践報告Ⅲ「３年生総合的な探究の時間　活動報告」

１　目標

１、２年次で取り組んできた探究活動をまとめたり、希望進路実現に向けた取組を主体的にすすめたりする過程において、自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。

２　年間の活動内容

１学期

回	日	内容	場所	
1	4 月 17 日	オリエンテーション２年間の振り返りとまとめ①	会議室	別紙①
2	4 月 24 日	振り返りとまとめ② →模擬面接①（友人と）	会議室→教室	
3	5 月 1 日	模擬面接②（教員と）	各教室	別紙②
4	5 月 8 日	進路希望別グループ分け →グループ別学習①	各教室	別紙③
5	5 月 15 日	グループ別学習②	各教室	
6	6 月 5 日	グループ別学習③	各教室	
7	6 月 12 日	グループ別学習④	各教室	
8	6 月 19 日	グループ別学習⑤	各教室	
9	6 月 26 日	グループ別学習⑥	各教室	
10	7 月 3 日	１，２年生への発表 「進路実現に向けた取り組みとこれからのこと」	各教室	別紙④

２学期

11	9 月 4 日	オリエンテーション/スキル別講座分け①	各教室	別紙⑤
12	9 月 11 日	スキル別講座②	各教室	
13	9 月 25 日	スキル別講座③	各教室	
14	10 月 2 日	スキル別講座④	各教室	
15	10 月 23 日	グループ別学習 （合格者は活動のまとめ及び個人探究スタート）	各教室	
16	10 月 30 日	グループ別学習 （合格者は活動のまとめ及び個人探究）	各教室	
17	11 月 13 日	グループ別学習 （合格者は活動のまとめ及び個人探究）	各教室	
18	11 月 20 日	グループ別学習 （合格者は活動のまとめ及び個人探究）	各教室	

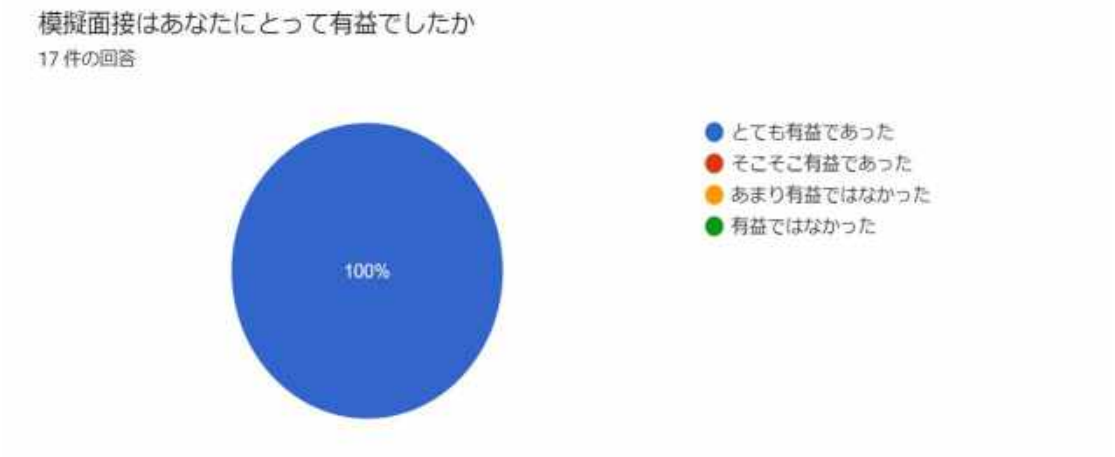
19	11 月 27 日	グループ別学習 （合格者は活動のまとめ及び個人探究）	各教室	
20	12 月 4 日	グループ別学習 （合格者は活動のまとめ及び個人探究）	各教室	
３学期				
21	12 月 22 日	卒業プレゼン【進路実現にいたるまで】①	視聴覚教室	
22	1 月 15 日	卒業プレゼン【進路実現にいたるまで】②	視聴覚教室	

３　具体的な取り組み活動

別紙①	活動の目的 【２年間をかけて総合的な探究の時間で学んできたことを他人に伝えるために内容をまとめることができる】
	まとめる内容 ①活動内容　②活動から得られたこと ③得られたことを今後どの場面でどのように生かすことができるか ④反省と改善
別紙②	活動の目的 【まとめたことをしっかり言語化できる】
	【模擬面接質問集】 質問①総合的な探究の時間で、どのようなことを探究してきたか 質問②探究活動で得られたことはどのようなことか 質問③探究活動で得られたことを、今後の生活でどのように役立てるのか 質問④活動の反省点と改善点は何か
	教員（面接官）６名に対して、スタンプラリー形式に２名回る。教員を６か所に配置して実施する
別紙③	活動の目的 【進路実現に向けて、自分が取り組むべきことを明確にし、準備する】
	各自進路希望別に分かれて進路学習。 ①就職（一般就職）　②国公立４年制大学Ａ　③国公立４年制大学Ｂ ④私立４年制大学　⑤専門学校Ａ　⑥専門学校Ｂ
別紙④	活動の目的 【自身の取組をまとめ１、２年生にプレゼンをすることで、改めて進路実現に向けた意識を高めるとともに、夏休みに取り組むべきことや課題点を言語化し、主体的な行動につなげる】
	①進路に対する目的意識 ②進路実現に向けたこれまでの取組 ③今後の受験スケジュール

	④進路実現に向けて今取り組むべきこと、さらに必要なこと
別紙⑤	活動の目的 【集団討論、講義理解＆プレゼンなど各試験で必要なスキルに特化したグループ分けを行い、新たなメンバー構成で、多様な視点を踏まえスキルアップを目指す】
	①集団討論　②集団面接　③プレゼン　④小論文　⑤面接Ａ　⑥面接Ｂ

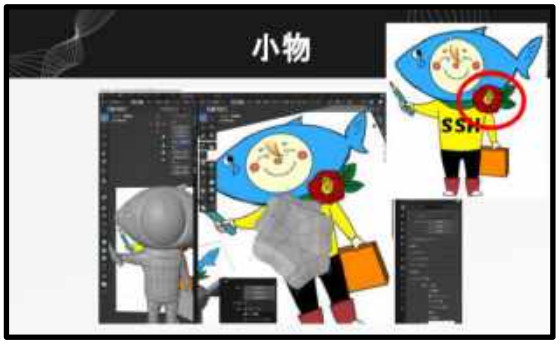
（１）模擬面接を終えて　（「生徒の振り返り」より）

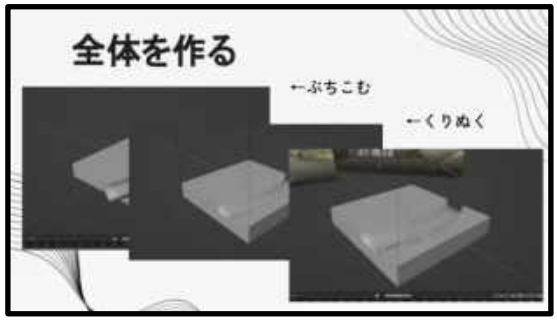


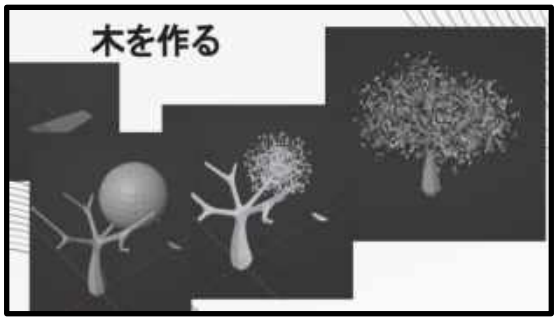
（生徒 A）自分にしか言えないことをしっかり言えるようにしないといけないと思った。何かに取り組んだ後は、それをこれからどう生かすのかまで考えないといけないとわかった。また聞き手のことを考えて、ゆっくりと話さないといけないと思った。これから進路実現に向けて、総合的な探究の時間で得た知識を何に生かすことができるのか、面接で言えることができるようにしっかりと考える。人の目を見て話すことを意識する。

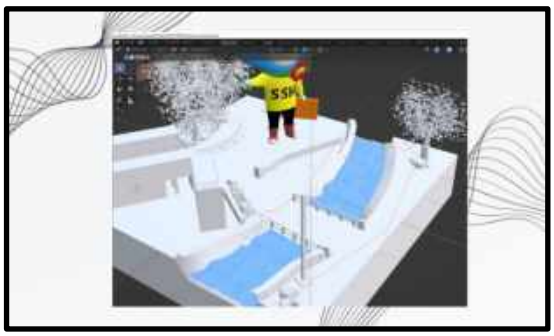
（生徒 B）自分の無力さがわかりました。客観的な視点を意識し、発言するということが大切だと思いました。同じような内容の質問を出されたときは、他に意識した点やなぜそのようにしようと思ったのかを聞かれていることが多いので、覚えておく。普段の姿勢が全て出るので、日常生活での姿勢に気をつけていきたいと思います。
（生徒 C）話す内容が薄くなっている部分が多々あったので、その部分の内容を濃くしなくてはいけないと思いました。また、自分が相手に聞いてほしいことを後半部分に持ってくることで、そのことについて質問してくる確率が高くなると聞いたので、そういったところの点も意識していきたいなと思いました。

（２）個人探究の発表資料一例「CG で清水高校のイメージモデルをつくる」（一部抜粋）









４　成果と課題

（１）成果

・１、２年時の総合的な探究の時間で調査・研究してきた内容を、３年時に振り返ることで、全体を俯瞰しながら、内容をさらに深化させることができた。また、面接形式で活動内容や、その活動から得られたことを言語化することで、意見の要点をまとめ、相手に分かりやすく伝える表現方法を学ぶことができた。

・進路実現に向けたさまざまな取組において、同じ課題を持つ生徒同士が、協働的・対話的に学ぶ中で、自分の課題やその解決に向けた手立てを計画的に考えて、行動することができた。

・進路決定後の個人探究では、自分の最も関心のある分野を探究し、それを発表することで、情熱をもって伝えることができるということを、他者が発表に臨んでいる姿勢から気づく生徒がいた。

・気持ちを言語化しつつ伝えることの難しさや、共感してもらうことの喜びを感じることができ、成長につながった。

（２）課題

・１、２年時に進めてきた地域とのつながりを意識した効果的な取組ができなかった。

・個人探究では、深く考察し、問いを立てるというプロセスが効果的に表れていない発表が多かった。自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返されるというプロセスまで持っていけた生徒は少なかった。

・個人探究では個人の関心事に視点が偏り、国際理解、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する課題など、幅広い視点から問いを立て、探究することができなかった。この課題を踏まえ、次年度は個人的な関心事から、現代的な諸課題に結びつけるように検討していく。

Ⅶ　実践報告Ⅳ「２１世紀のジョン万育成プロジェクト」

１　取組の目的

身近な地域課題から国際的な問題まで幅広い視野を持ち、多様な文化や社会、価値観を受け入れ、他者と協働する中で、自ら課題や目的を設定し、その解決に向けて主体的に活動できる能力の育成を目指す。

２　取組計画（取組の概要）

（１）フェア・ヘイブン姉妹都市交流
（２）青少年グローカルリーダー育成フォーラム
（３）台湾金甌女子高級中学とのオンライン交流
（４）英語キャンプ
（５）高知の魅力発信グローバル人材育成事業

３　取組の詳細

（１）フェア・ヘイブン姉妹都市交流について

ア　目的

・本校生徒を姉妹都市に派遣し、ジョン万祭りを通して相互の親善を図るとともに、異文化を体験し、国際社会の中で生きる豊かな人間性の育成を図る。
・郷土の先人、中浜万次郎の足跡をたどりながら、彼の偉大な業績について再認識を深めるとともに、チャレンジ精神（ジョン万スピリット）を涵養し、これからの人生に役立てる。

イ　対象生徒

・２年生６名、３年生１名　合計７名

ウ　日程

・１日目　高知龍馬空港→成田空港→ボストン空港→ボストン市内ホテル泊
・２日目　ボストン市内観光→フェア・ヘイブン市内ホテル歓迎会
・３日目　第 18 回ジョン万祭り
・４日目　ジョン万＆ホイットフィールド船長ゆかりの地訪問
　　フェア・ヘイブン高校訪問、高校生と交流　夜 サヨナラパーティー
・５日目　前 ALT 宅にホームステイ→NY 観光→JFK 国際空港→成田空港

エ　帰国後の報告活動

・土佐清水市立清水中学校文化祭で活動報告（10 月）
・清水高校文化祭で活動報告（11 月）
・土佐清水市長表敬訪問（11 月）
・土佐清水市産業祭で活動報告（12 月）
・高知の魅力発信プログラム Discover Kochi Project で英語プレゼン（12 月）
・ジョン万生誕祭で英語プレゼン及び活動報告（１月）
・世界青年の船　事業地域実践活動（土佐清水市）英語プレゼン（２月）

オ　生徒の変容（一部抜粋）

・姉妹都市交流を終えての感想

今回の旅で改めてジョン万次郎は国境を超えて愛されているのだと感じることができました。また、今までは英文法をしっかり学習したうえでコミュニケーションを取ることができると思っていたけれど、実際に行ってみて、片言でも伝えようとする気持ちがあればコミュニケーションが図れるということを学びました。現地では最高のおもてなしで私たちを歓迎してくれて、フェア・ヘイブンの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。アメリカで視野を広げることができたので、この経験を無駄にせずに、進路の幅を狭めることなく、高い志を持ち続けていきたいです。
アメリカに行くと決まった時、もちろん興奮していましたが、どちらかといえば不安な気持ちが大きかったです。ネイティブの方と話は通じるのか、友好関係を築けるだろうかとたくさんの不安がありました。しかし、今回の留学で何事にも取り組んでいくことの大事さを知りました。チャレンジすることで自分の可能性が広がっていくことを実感し、今までの自分の考えや価値観が大きく変わる経験ができました。私は大学で英語と異文化理解について学んでいくつもりです。この経験を大学での学びやこれからの人生で生かしていきたいです。
外国の人とかなりコミュニケーションが取れました。また、現地の人がすごく親切で、おそらく聞き取りにくい私の英語に対しても、一生懸命理解しようとしてくれたので、コミュニケーションが取りやすかったです。いつも英語の時間にやっている Small talk もフェア・ヘイブン高校生との交流で質問タイムのときに活用できました。いろんなことが聞けて、趣味が同じだった生徒もいて面白かったです。みんなで、ジョン万祭りに参加することができたこともすごく思い出に残りました。書道の時間に、筆で、現地校の生徒の名前を書いて渡したら、みんなとても喜んでくれたので嬉しかったです。来年は土佐清水市に来てくれるので、今回の感謝を込めて、日本の最高のおもてなしをしたいです。
旅のメンバー、現地の人との関わりを通して、自分を理解してもらうためには、やはり相手から理解してもらうのを待つのではなく、自分から積極的にコミュニケーションを図らないといけないと思いました。英語が聞き取れなかったことも多かったけれど、話ができた時の達成感はとても大きかったです。また今までは行事などに積極的に参加してきませんでしたが、この経験を通して、自信を持つことができました。これからは積極的にさまざまな活動に取り組んでいきたいです。高校生のうちに海外に行くということは貴重な体験だと思うし、この旅で学んだことを生かしていきたいです。
自分を表現することに対して抵抗がなくなり、初対面の人と話をしたり、英語で積極的に話すことができるようになりました。ネイティブの方の発音や会話の流れ、速さなどに触れることができ、自分の夢に一歩近づけるような経験になったと思います。高校生のうちに海外を経験できたことは、これからの人生で強い武器になると思います。将来、学生の留学に携わり、手助けができるように外国語の勉強に励みたいです。来年は、フェア・ヘイブンの方が土佐清水市に来てくれるので、その時にコミュニケーションがしっかり取れるように、来年までにもっと勉強して、自分流のおもてなしができたらいいなと思います。

英語という言語にとても親近感を持つことができました。授業で学習した内容を生かす場面もあり、自分の学習してきたことに自信を持つことができました。英語しか使いようがない状況でどれだけコミュニケーションを図ることができるのか知ることができ、課題も見つかりもしたが、「意外といけた！」と思えたことが、今後英語を勉強するにあたってのモチベーションにつながりました。そして、英語がわからないから相手に任せるのではなく、自分から話題を振ってみることで、何について話しているのかを、自分で理解した上で会話ができました。ジョンマンスピリットの一つである「チャレンジ精神」の大切さも学ぶことができ、とても良い経験になりました。
この旅に参加して、はじめは文化の違いや言語の違いに少し戸惑いもあって、不安に感じていた部分も多かったのですが、途中からは徐々に自分らしさを出しながら、現地の高校生と交流したり、自分で英語を使いながら注文したりすることもできたので良かったです。また、今回の訪問でできた人とのつながりを大切にしていくことや、この体験を周りに伝えていく責任もあると思うので、ジョン万次郎に関係のイベントや地域のイベントには積極的に参加したり、高校だけではなく、より多くの人にこの体験を伝えられるようにしていきたいです。

・姉妹都市交流を終えての感想（英語）

When it was decided that I would go to America, I was excited, but also anxious. I wondered if I could communicate with native speakers and build friendly relationships. However, through this study abroad program I learned the importance of taking on challenges. By facing various challenges, I realized that my possibilities were expanding, and I had experiences that significantly changed my thoughts and values. I plan to study English and cross-cultural understanding in college. I hope to apply this experience to my future education and personal life.
Being in a situation where I could only use English, I discovered how much effort I could put in. Despite experiencing challenges, the moments when things went unexpectedly well became my motivation for studying English in the future. I also learned that instead of relying on others because I didn't understand English, I could start conversations myself. Understanding the importance of the "spirit of challenge," part of the Johnman spirit, was a valuable experience.
Through the interactions with my travel companions and the local people, I realized that to make others understand me, I need to actively communicate with them rather than waiting for them to understand me. Although I often couldn't understand English, the sense of achievement when I could communicate was significant. This experience gave me confidence, and I now want to actively participate in various activities in the future, something I didn't do much before.
Participating in this trip, I initially felt a bit confused about the cultural and language differences, and there were many parts that made me anxious. However, as the journey progressed I gradually expressed my true self, interacted with local high school students, and even ordered in English. I want to cherish the connections I made during the trip and share my experience with the people around me.
Through this trip, I felt that John Manjiro is loved beyond borders. I learned that communication is

possible with the intention to convey, even if it's through broken language. We were warmly welcomed by the Fairhaven community, and I am grateful to them. Since I could broaden my perspective in America, I want to use this experience wisely and aim for higher goals without limiting my future path.

・帰国後の様々な報告活動を終えての振り返り、感想

帰国後にこんなにもアメリカでの経験を語ることになるとは思っていなかったけれど、現地でのたくさんのイベントに参加して、旅行の思い出もそのときだけのものではなくて、より深く脳裏に刻み込まれた気がします。イベントばかりで大変な部分は正直あったけれど、つながりっていう面でも、このような活動は大切かなと感じました。
今まで大勢の人の前に立って何かを発言する経験は少なかったので最初の頃はとても緊張しました。でも回数を重ねるごとに英語の表現を考えながら、自分たちが実際に見たものや体験したことを伝えることができたと思います。私がこの旅を通して、変わったと思うことは、人に対する思いが変わりました。海外に行って私たちは完璧に英語を話せたわけではありません。ではなぜコミュニケーションが取れたのかと言うと、相手の高校生が私たちの言葉を一生懸命理解してくれようとしたからだと私は思います。その経験ができたからこそ、相手への思いやりの心が大きく変わりました。
数多くの発表を通じて人を楽しませたいという気持ちが強くなりました。アメリカへ行ける機会は少ないし、僕自身言葉では言い表すことが出来ないほど特別な経験ができたので僕達のプレゼンを聞いて、アメリカに行こうと思う人が増えてくれたら嬉しいです。また、ジョン万に関係する人々とのつながりが増え、またその中で年齢の異なる方々と会話をする機会も増え、考え方や視野が広がりました。
旅行前は自分の考えを持っていても、あまり自分の意見が言えず、人に合わせてばかりだったけど、イベントなどを通して少しずつ克服できるようになりました。外国に行き、新しい出会いがあったことから、もっと他国の高校生と連絡を取り、英語以外の言語も学んでみたいと思うようになりました。また、異文化のことをもっと知りたいと思うきっかけを作ることができました。今までは、こういう場に参加することは考えられず、珍しいと家族や知り合いに言われることがあったけれど、いきいきとしているとも言われるようになりました。あらためてチャレンジして良かったと思いました。
Discover Kochi Project は初の英語での発表で、発音とか表現に苦労したけれど、Presentation が終わったら、すごく達成感を味わうことができました。なかなか英語は上達しないけれど、これからさまざまなことに挑戦していきたいと自分から思えるようになりました。たくさんのことをこれからも経験していきたいです。

カ　活動の様子

・フェア・ヘイブン姉妹都市交流（10 月）

・帰国後の様々な活動報告

土佐清水市長表敬訪問（11 月）

土佐清水市産業祭（12 月）

Discover　Kochi　Project（12 月）

ジョン万生誕祭（１月）

（２）青少年グローカルリーダー育成フォーラム

ア　対象：２年生（５名）

イ　概要：高知県青年国際交流機構（Kochi IYEO）と JICA 四国が共催する国際交流フォーラム「青少年グローカルリーダー育成フォーラム 2023 夏」に意見プレゼンターとして参加

ウ　実施時期と取組の実際：６月～８月

○６月～７月

・２年生を対象にフォーラムへの参加者を募り、２年生女子５名が希望する。

・Kochi IYEO 代表の前田正也氏とのプレゼンスキルアップ講座（オンライン）が始まる。プレゼンスキル向上のみならず、異文化理解や、自己実現に向けた主体的な行動の重要性を学ぶ。

・発表原稿が完成し、プレゼン練習が始まる。聴衆を惹きつけるプレゼン方法を学ぶ。

○８月

・14 日フォーラム本番　9:30～16:00　オーテピア高知図書館４F ホール

	テーマ	内容
A	未来の子どもが行きたい学校	私が考える、未来のこどもが行きたい学校は、こどもたちのコンプレックスを解消してくれる学校である。小さな成功を積み重ね

		ることで子どもの自信につながり、自分にもできる！やってみたい！というような積極性にもつながる。子どもたちのコンプレックスが軽減されると、自己肯定感も高くなる。このことはイジメ防止や子どもたちの進路にも大きく役立つ。
B	ジョン万スピリットを身につける方法	究極のサバイバル精神であるジョン万の精神を学ぶことで、災害時にも動揺せずに生き抜く力を身につける。 ・ジョン万次郎の志についてもっと深く考え、その上で自分が本当にしたいことはなにかと日頃から考えること。 ・ジョン万次郎のような精神を持ち、考えるだけでなくしっかり行動に移すこと。 ・どうすればもっと良くなるのか、どうすればあの人を超えることができるのかなど、自分で自分の改善点を見つけ、より高みを目指していくこと。
C	医療的ケア児	医療技術が向上したことで、出生時に疾患や障害があり、これまでであれば命を落としていた赤ちゃんを救うことができるようになった。その一方で、看護に伴う親の離職などさまざまな課題もある。私は、医療的ケア児が延命治療を受けることで、他の子供と同じ環境で暮らせ、同じ学校で学ぶ、という未来が 1%でもあるのなら、最後まで延命治療を続けるべきだと考える。みなさんはどう考えますか？
D	子どもは親元に返すのが一番、なのか。	虐待児童に関する論文を読み「子どもは親元に返すのが一番だ」と当たり前のように書かれているのを見て疑問を持った。私の親は里親をしていて、事情がある子どもを預かっている。様々な出来事を通して、その子にとって私の家で過ごすのが安全で一番ではないだろうかという結論に至った。最近では、児童相談所が一度保護した子を家に戻したら、亡くなっていたという事件も少なくない。「子どもは親元に返すのが一番」という意見を皆さんならどう考えますか。
E	私の理想とする学校	私が考える「未来のこどもが行きたい学校」は、知識を一方的に与えられるのではなく、自分自身が考えて、行動を決定できる時間を与えてくれるような学校である。年齢や能力、何よりその人のやりたい！という情熱を第一に考えて、自分でカリキュラム（時間割）が決められる学校こそが私が行きたい学校である。

（３）台湾金甌女子高級中学とのオンライン交流

ア　オンライン交流

・日時：４月 27 日（木）16:00～17:30

・参加生徒：３年生「異文化理解」選択生徒 20 名　希望者 21 名　合計 41 名

・内容：

１）クイズ作成アプリ Kahoot を使い互いの学校や地域文化をクイズ形式で紹介

２）互いの文化や産業などテーマ別に英語でプレゼン

イ　オンライン以外での交流

・金甌女子高級中学からオリジナル缶バッジが届く

・清水高校からクリスマスカードを送る

・金甌女子高級中学から年賀状が届く

ウ　交流の様子

オンライン交流（４月）

いただいた缶バッジ

缶バッジのお礼の手紙

送ったクリスマスカード

いただいた年賀状

（４）英語キャンプについて

ア　目的

本県が進めるグローバル教育のさらなる推進を図るため、県内の中山間地域の高等学校において、県内留学生や外国人指導助手（ALT）等との交流を通して、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒の異文化理解や英語への興味・関心を高めるとともに、英語による発信力の育成に取り組む。

イ　日時

令和５年 11 月 18 日（土）　13:00～16:00（受付 12:30～）

ウ　会場

清水高等学校　視聴覚室

エ　参加児童生徒

高校生９名・中学生６名・小学生 15 名(小学生は３年生以上)

オ　日程

12:30～13:00　受付

13:00～13:10　開会（高等学校振興課）
13:10～13:20　自己紹介（ALTs・留学生）
13:20～13:50　活動①（自己紹介を中心とした活動）
・小グループで自己紹介
１）ペアに分かれて自己紹介
２）グループ内で他己紹介
・全体でゲーム
（名前と引いたカードのお題「（例）好きな○○」を言うなど）
14:00～14:50　活動②（Show & Tell）
・ステーションツアー（Show & Tell）
３グループに分かれて、役割を交代していく
１）A：発表者　B・C：オーディエンス
２）B：発表者　C・A：オーディエンス
３）C：発表者　A・B：オーディエンス
発表者は「My ○○(country/city/school 等)」のトピックで発表を行い（写真や絵などを見せながら）、オーディエンスは発表後に質問をする。
15:00～15:50　活動③（クイズ）
・クイズ：Jeopardy（カテゴリー別に配点の異なる問題があり、配点の高い問題は難易度も高い。）チーム対抗で行う。
15:50～16:00　閉会（清水高校挨拶）

カ　生徒の変容
児童・生徒のアンケートより一部抜粋（回答数 28）

◇英語キャンプの満足度は、何パーセントですか。			
80％以上	65％以上～80％未満	50％以上～65％未満	50％未満
26（92.9%）	2（7.1%）	0（0%）	0（0%）
◇英語キャンプに参加して、もっと外国の人と交流したいと思いましたか。			
強く思った	少し思った	あまり思わなかった	全く思わなかった
22（78.6%）	5（17.9%）	1（3.5%）	0（0%）
◇英語キャンプに参加して、もっと英語を話したいと思いましたか。			
強く思った	少し思った	あまり思わなかった	全く思わなかった
22（78.6%）	6（21.4%）	0（0%）	0（0%）

【感想など】
・初めて留学生と会話してとても楽しかったし、クイズやプレゼン、自己紹介もできてよかったです。いろいろな人のお気に入りのものを知ることができておもしろかったです。また、英語キャンプに参加したいです。楽しみです!!（小学生）
・外国の人たちと交流したり、中学生、高校生、大学生の人たちとも、クイズやプレゼンをしたりして楽しかったし、英語も色々学べたので良かったです。（小学生）
・みんなと交流できるようにしたいから、チームの活動と同じくらいチーム以外の人との